

麻しん（はしか）に御注意ください

1. 麻しんはどんな病気ですか？

- 患者さんが咳やくしゃみをした時、飛び散ったウイルスを吸い込むことでうつります。
⇒換気が不十分な空間では、空気中にたどようウイルス吸入で感染（空気感染）します。
- ⇒ただし食品内や体の外でウイルスは増殖できず、細菌とは異なり数時間で感染力を失います。
- ⇒免疫を持たないと90%以上の人が感染し発病します（1人が12人以上にうつすと言われています）。

2. 麻しんはどんな症状になりますか？

- 初期症状（はじめの3～4日）は発熱（38℃前後）と咳・鼻水・目の充血・目やにが出て、
その後いったん熱が下がり、再び熱が出ると同時に全身に発疹が出ます。
さらに4～5日高熱が続き、肺炎や脳炎を併発すると重症化する場合があります。
- ⇒**症状が出る1日前から熱が下がった後の3日間**は、人へ感染させる力（感染力）があり、
特に咳のある時に最も感染力が強くなります。
- ⇒発疹が出る前から感染性があるので、風邪と見分けにくく発見が遅れがちです。
- ⇒**患者と接してから10～12日目（約2週間）に発病**するので、接触者の追跡を保健所が行います。

3. 麻しんの患者さんと接したら全員発病しますか？

- いいえ。現在、満46歳以上の方は、幼少期にほとんどの方が麻しんにかかっています。
- ⇒一度かかったり、予防接種で十分な免疫をもっていれば、再度かかる心配はないと言われています。
- ⇒麻しんと風しん（3日はしか）を勘違いする場合がありますので注意が必要です。
- ⇒過去に2回の予防接種を受けている平成2年生まれ以降では、接種歴を確認しましょう。
- ⇒1回だけの接種歴や、満26歳から40歳前後では免疫が不十分な可能性が高く健康観察が必要です。



4. 疑わしい症状が出たときは？

- あらかじめ、**必ず医療機関に「麻しんの疑いがある」と電話で連絡後、受診**しましょう。
- ⇒公共交通機関の利用を控え、必ずマスクを着用し、医療機関の指示に従って受診してください。
- ⇒患者との接触が明らかな方で健康観察中の方に症状が出た際は、保健所が受診の調整をしています。
- ⇒医師が麻しんを疑った場合は保健所へ連絡をいただき、精密検査を県の衛生研究所が行います。

<お問い合わせ先>

置賜保健所 感染症予防担当 TEL：0238-22-3002（直通）